

平成24年度 北陸技術士懇談会
第2回 技術講演会報告

北陸技術士懇談会の平成24年度第2回技術講演会が、平成25年2月2日(土)に金沢勤労者プラザで行われました。

今回は、「まちづくり」をテーマに、基調講演に金沢工業大学の谷明彦先生をお迎えしました。その後、まちづくりに関する3名の事例発表をお聞きし、最後に4名の講師によるパネルディスカッションが行われました。

■屋敷会長の挨拶

今回のまちづくりというテーマに関して、会長ご自身の経験より、まちづくりに係わる人々が同じ方向性を持つために、様々な意見をどう集約していくかということが重要である、というお話がありました。

また、大震災以降、防災に重点をおいたまちづくりが行われることが多くなっていますが、防災こそ様々な分野の専門集団である技術士が一致して取り組むべき仕事であるとのことでした。

それと、平成25年度より試験制度が変更となる技術士第二次試験についての説明がありました。



■基調講演

「まちづくりの歴史・現状・未来」

谷 明彦氏

(金沢工業大学教授 技術士 建設部門/石川)

今回基調講演を頂いた谷先生は、東京大学、アメリカのペンシルベニア大学をご卒業後、清水建設、創建で都市開発や都市計画のコンサルティングなどを長く手がけてこられました。その後、金

沢工業大学で教鞭をとられることになり、国内外の都市計画や地域経済についてのご研究を行われるとともに、都市計画辞書の作成、行政へのまちづくりへのアドバイス、地域におけるまちづくりの実践など、多方面でご活躍されています。



最初に「まちづくり」に関する定義について触れられ、元々「まちづくり」という言葉は1970年代頃から使われるようになったそうですが、「まちづくり」という専門はなく、教えている大学もないのだそうです。

続いて、谷先生が石川県で取り組まれた事例の紹介がありました。最初は、なんと失敗事例についてのお話で、石川県内の温泉地で地元住民とともに進めていたまちづくりでしたが、まちづくり交付金が出たとたんに、外部から様々な人が入ってきてしまい、住民の方と進めていた方針が覆されてしまったということでした。

その失敗体験を生かして取り組まれたのが、白山市白峰での活動で、最初に住民の方々と、「まちづくりの指導者や方針を変えない」という誓約書を交わし、現地に研究室も設置されたそうです。白峰では、地元の材料を活用した庭園づくりなど、お金をかけずに継続的に続けられるまちづくりを行うことで、イベント時期以外にも人が訪れるようになり、大きな成果が得られたそうです。

その後、白峰の成果を橋立や東谷に展開され、最近では、金沢市長町、鶴来でもまちづくりに取り組まれているそうです。

まちづくりで大切なのは、目に見える結果を出すことで、それには住民の方のやる気が出ることをする、知名度を上げる、そして、地域の経済が

循環するようにすることだそうです。逆にまちづくりの間違ひは、箱ものを作ったり、調査して提案するだけの活動であるという意見には、同意される方も多かったのではないかと思います。

最後にまちづくりの未来に向けての十か条を紹介いただき、講演は終了しました。

■北陸3県での事例等発表

① 講演1「生きた都市としての発展」

城戸 杏里氏（北電技術コンサルタント(株)／
二級建築士／富山県）

事例発表の最初は、海外での都市研究という、スケールの大きなお話でした。

ネパールのカトマンズ盆地には、現在も中世の建造物が人々に利用されながら残されており、世界遺産に指定されています。しかし外来文化の流入や、生活様式の変化など都市化が進み、世界遺産の維持に影響を与えています。人々が生活を続けながらも建造物の保存活動を行っていくために、都市の成り立ちや構造、利用形態について調査研究をされたというご発表内容でした。



調査では、まず都市施設や道路の位置をマッピングし、水汲み場や寺院といった施設の配置状況から、住居がどのように形成されていったのかということの研究されたそうです。さらに、現地でヒアリング調査を行い、都市施設である休憩所や礼拝所がいつ、誰に、どのように利用されているのか、また、現地に特異な中庭型住戸群について調べられ、その結果から都市の構造と成り立ちについて解明をされています。

外国での学術的な研究であるため、初めて聞く用語が多いご発表でしたが、当会ではなかなか聞

く機会のないお話でもあり、興味深かったです。

② 講演2「山中温泉のまちづくりについて」

白崎 康宏氏（㈱日本海コンサルタント／
技術士 建設部門／石川県）

事例発表の2番目は、石川県の山中温泉のまちづくりについてのお話でした。

加賀市にある山中温泉は温泉観光地として有名ですが、他の観光地の例にもれず、観光客は減少しています。そこで、魅力ある温泉地を目指し、ゆげ街道大生水通りの整備を中心に、地元の伝統、名産を生かしたまちづくりが行われました。

事業は足掛け9年かけて行われたそうですが、最初は、街道の修景整備などハード事業を中心に実施されました。具体的には、街路デザイン、街道沿いの建物の外観の統一、水を生かした施設の設置などが行われました。また、街道沿いの建物の軒をそろえたり、路地や小径を整備し、まち歩きがしやすいような工夫も行われました。

ただ、ハード事業だけでは、リピーターができないということで、山中温泉に縁のある松尾芭蕉に師事した泉屋桃妖という俳人に注目し、お酒やプリンなどオリジナル商品の開発や、ハナモモの植樹、山中の風景写真を使用した「山中温泉フォト575」を開催しているそうです。その結果、俳句愛好家が山中温泉を訪れるなどの効果があったそうです。



山中温泉のまちづくりは、地元の人を中心となり、あまり堅苦しくなく行ったため、うまく進んだのではとのことでした。コンサルタントは裏方に徹し、行き詰った時に背中を押すのが役目であるという講師の最後の言葉が印象的でした。

③ 講演3「福井のまちづくり」

辻 隆治氏 (株)サンワコン/技術士 建設部門
総合技術監理部門/福井県)

事例発表の最後は、福井のまちづくりと滋賀県栗東市での取り組みについてのお話でした。

最初は、福井市を例に都市計画の今昔の変化についてお話いただきました。

昭和40年代の高度成長期の都市計画は、人口や産業の将来予測から工業地、商業地、住宅地などを色分けし、規制や誘導により、土地利用を計画的に行うというものでした。その結果、住みやすく、利用しやすいまちになったものの、まちの範囲が大きくなり、住居から職場や商店への移動距離が長くなったり、また、地域のコミュニティが薄れてしまうという問題が出てきました。

その反省をもとに、再び地域のコミュニティを復活させようと、最近は様々な取り組みが行われるようになってきているそうです。

その一例として、滋賀県栗東市の取り組みが紹介されました。栗東市では旧東海道の1区間を通行止めにして歩く「ほっこり祭り」の開催や、「りっとう景観記念日」の開催など、イベントの企画や運営を通して、地域のコミュニティを強くしたり、景観に対する市民意識の醸成を図るという取り組みが継続的に行われています。「栗東景観記念日」には、開催する地区住民が、あかり、里山、古民家など地区の魅力を活用したイベントを企画し、地域のつながりが戻ってきているそうです。

「まちづくりはコミュニティづくりであり、人はコミュニティなしでは生きられない!」という、講師からの強い言葉で発表は終了しました。



■パネルディスカッション

講演会の最後は、谷先生をコーディネーターにお迎えし、事例発表を行った3名の講師によるパネルディスカッションが行われました。

最初に、谷先生から事例発表者に発表内容についての質疑応答があり、その後、「これからのまちづくりや都市計画はどうしていったら良いのか?」というテーマで議論が進められました。

会場参加者からも発言があり、「お金をかけたのに人が歩いていない無駄遣いのまちづくりが多い」、「まちづくりに暮らしている人々の意見が入っていない」等の批判的な意見も出されました。

一方で、これからのまちづくりでは、「人がすみやすいと感じられるようにする」、「地区が経済的に自立できるしくみ作りも重要」、「家の中にいる人を外へ出してまちづくりに参加してもらう」といった意見も出されました。

まちづくりに答えはなく、それぞれの地域で違うまちづくりが行われるべきだそうです。住んでいる人々が自分たちのまちの事を良く知り、意見が多く出されることがよいまちづくりに繋がると、谷先生からのアドバイスもありました。

今回は、結論を出すことが目的のパネルディスカッションではありませんでしたが、会場の方がそれぞれに得るものがあった内容となつたのではないかと思います。



■交流会

講演会後に開催された交流会は、谷先生と講師の3名を囲んで、美味しいお酒と楽しいお話が尽きない楽しい会となりました。

文責：事業委員 森 照代 (福井)